



## 新型コロナウイルス感染拡大から約3年 全学教育推進機構にて コロナ禍に思う

新型コロナウイルス感染拡大から約3年が過ぎ、このあたりで一度「小括」としてなにか書き残しておいてもよいかと考え、このコラムでまとめてみることとした。



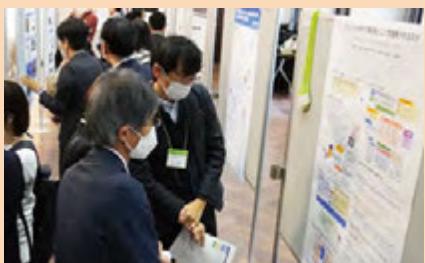
本学では平成31年ころには「メディア授業」の議論がされており、コロナ問題が深刻化した時点でCLE、KOANという遠隔教育のインフラは十分に整っていた。だが、①教職員や在学生に Blackboard Collaborate Ultra など、オンライン（授業・会議）ツールの使用を周知、普及させる、②まったく阪大のことを知らない、4月に入学してくる新入生のケア、③学事暦を変更せず授業を開始する、が緊急課題として浮上した。実は、本機構の教育学習支援部を中心に①については2月はじめから他大学の状況などさまざまな情報が集約されていた。また、②についても同部のもと本機構が一丸となり「阪大ウェルカムチャンネル」を立ち上げ、新入生にオンラインで多種多様な情報を提供した。

全学の方針にかかわるこれだけのことを本機構が中心になって実施できたことは、手前味噌ながらよくやった、と自分たちを褒めてあげたい気分である。他方、新型コロナがあぶりだしたのは、社会において個々人がさまざまな要望をもち、その方向性が千差万別である、ということであった。そのため「最大公約数的な対応」の難しさには苦労をさせられ続けた。どのような要望を念頭においた「今後の課題」と称した2020年4月16日付のメモでは「メディア授業はいつまで続けるか、という質問への対応」「情報環境が整っていない学生への早急な対応」「オンライン授業実践マニュアルの作成」「CLE ヘルプデスクの強化」という文言が並んでいる。この課題も、西尾総長、田中教育担当理事の指導下で本機構が中心となり各部局と連携を取りながら、ひとつひとつ解決していった。いまはあたりまえになっているこれらの対応も、気が遠くなるような作業を経て実現された。そのため、この3年間があたかも10年以上経過したかのようである、というのが正直な感想である。

全学教育推進機構 機構長 進藤修一

### CELAS NEWS

#### 「第7回大阪大学豊中地区研究交流会」で全学教育推進機構の教員がポスター発表を行いました



2022年11月4日 10:30-15:00 大阪大学会館アセンブリー・ホール（豊中キャンパス）

- ・どのような行為が二重投稿として問題視されるのか  
—研究分野による研究不正の認識の多様性と共通性— 中村征樹 ほか
- ・『未来の大学教員養成プログラム』受講生の「教育の抱負」の記述内容  
—階層的クラスタによる特徴の抽出—  
金賢眞(SLiCSセンター)、大山牧子(現神戸大学) ほか

#### 全学共通教育「学問への扉」のシンポジウムをハイブリッド開催

2023年3月14日 13:30-17:00 大阪大学会館アセンブリー・ホール（豊中キャンパス）

挨拶 大阪大学理事・副学長 田中敏宏

一般財団法人三菱みらい育成財団 常任理事 藤田潔 様

話題提供 全学教育推進機構 副機構長 宇野勝博、教授 村上正行

URL: <http://osku.jp/q0444> ▶



## 特集

# 令和4(2022)年度 着任教員紹介

令和4年度は5名の教員が全学教育推進機構に着任しました。どんな人たちなのでしょうか。自己紹介を兼ねて寄稿をお願いしました。著書紹介あり、クイズありと多彩な内容でお送りします。



## 全学教育企画開発部 全学共通教育部門 大岡宏造教授



2022年4月に古巣の理学研究科から異動し、着任しました。専門は「光合成による光エネルギー変換機構」で、おもに蛋白質の物理化学的性質を研究しています。さて、今日も地球上には、太陽から燐々と光がふりそいでいます。光合成は、太陽からの無尽蔵ともいえる光エネルギーを、地球上のあらゆる生命活動を維持する化学エネルギーに変換する過程です。この光合成の仕組みを理解するには、幅広い分野の基礎知識を必要とすることは否めません。

それゆえ初学者には何から勉強していくべきか、分かりにくいくとも確かです。本書は、各分野の専門家が有機的につながることで学習内容を体系的にまとめていますので、興味あるところから読み始めることができます。学部生や大学院生を対象にしていますが、コラムによる研究解説なども充実していますので、光合成研究に興味を持ち、将来は光合成関連分野に進みたい初年度生にも最先端の知見に容易に触れることができます。

### 著書紹介

「光合成」(朝倉書店)  
2021年12月1日刊行



## 全学教育企画開発部 全学共通教育部門 田中冬彦教授

私の専門はデータ科学、特にベイズ統計の理論研究です。講義では学生グループでのデータ分析も多く、今回はその際のアイスブレイクを紹介します。

まず、各自、目玉焼きにかけられても食べるもの（アリ）、無理なもの（ナシ）を選択します。次に意見が分かれたものについて、アリ派、ナシ派で理由を挙げてもらいます。そうすると、みんな予想以上にお互い違っていて盛り上がります。



そのまま食べれるのもアリと思うもの、  
すべてに○をつけてください。  
(細部は想像にお任せ)

- ・しょうゆ
- ・ソース
- ・ケチャップ
- ・しお
- ・マヨネーズ
- ・こしょう
- ・みそ
- ・とうがらし
- ・わさび
- ・しょうが
- ・酢
- ・さとう
- ・はちみつ
- ・ピーナッツバター
- ・ヨーグルト
- ・コーヒー
- ・緑茶
- ・コーラ
- ・ミルク



データ科学の応用では色々な専門家が参画するので、異なる価値観を尊重しつつ、データ分析と結果の解釈、課題解決へつなげていきます。ところが、目玉焼きですら価値観は違い、「目玉焼きにピーナッツバターは無理、当たり前だろ！」と思っていても、全然、当たり前じゃない。こんなことも学生に実感してもらいます。さて、みなさんは「目玉焼きにコーラは無理」ですか？ それは当たり前だと思いますか？

## 全学教育企画開発部 全学共通教育部門 金森サヤ子准教授



皆さん、はじめまして。2022年4月に全学教育企画開発部全学共通教育部門に着任しました、金森サヤ子です。専門分野はグローバルヘルスという、地球規模の保健医療課題を様々な分野の関係者が協働して解決しようとする分野です。人の生死に関わることについて、様々な分野の人たちが協働して課題解決に取り組む。これだけでも十分に面白くチャレンジングですが、昨今では、新型コロナウイルス感染症や気候変動の影響もあり、ワンヘルスやプラネタリーヘルスといった概念も融合され、今は、まさにビヨンド・グローバル・ヘルスの時代です(詳しくは講義でお話ししますね！)

### 【研究にまつわるクイズ】

人類の歴史は、感染症との闘いの歴史であると言っても過言ではありませんが、今、世界で最も根絶可能な感染症は何だか、ご存知でしょうか。

▶ 答えはWEBサイトへ

## 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門 小見山高明講師

2022年の4月より着任しました、全学教育推進機構スポーツ・健康教育部門の小見山です。私はこれまで、健康づくりと運動に関わる教育・研究を行ってきましたが、大阪大学に在籍する皆様の健康増進に貢献するような情報を発信していきたいと考えています。



### 【研究にまつわるクイズ】

健康づくりのためには運動は必須です。しかしながら、勉強や仕事などで、まとまった運動時間が十分確保できないという方も多いかと思います。もしかすると「1回の運動である程度の時間運動しないと体力向上や脂肪燃焼には効果がない」ということも聞いたことがあるかもしれません。

それでは、①まとまった時間で運動する場合と、②隙間時間でこつこつ運動する(小分け運動)場合では、運動による健康増進効果(体力向上・減量)はどちらが良いのでしょうか。

▶ 答えはWEBサイトへ

## 全学教育企画開発部 全学共通教育部門 坂口愛沙助教



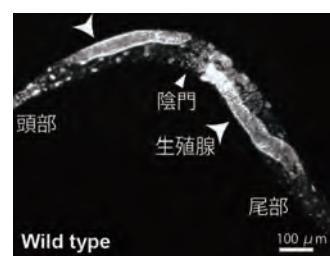
2022年8月16日に着任しました坂口愛沙です。着任前は、理学研究科URA(リサーチ・アドミニストレータ)として教育研究支援を行っていました。研究者、教育者、URAとしての経験を活かし、全学教育の推進に貢献できればと考えています。

### 【研究にまつわるクイズ】

生物学分野において、種をこえて保存された生命現象の研究に用いられる生き物のことをモデル生物といいます。モデル生物の一つである線虫 *Caenorhabditis elegans*(図1)は、飼育しやすく、遺伝学の研究に用いることができるという特徴をもちます。以下の選択肢のうち、*C. elegans*の特徴として知られているものはどれでしょうか。

1. 雌雄同体で、1匹から子孫を増やすことができる。
2. 暑さに強く、30℃くらいでも問題なく生育できる。
3. 成長すると、雄が雌化する。

▶ 答えはWEBサイトへ



答えと説明はこちらのWEBサイトをご覧ください。 <https://www.celas.osaka-u.ac.jp/newsletter/11> ▶▶



# イベント報告

## ■ 高大接続活動で推進するアカデミック・ライティング教育

高大接続活動として、高校生を対象としたアカデミック・ライティング教育を推進しています。大阪教育大学附属高等学校池田校舎の1年生と2年生や大阪府立大手前高等学校の2年生を対象に探究学習の支援となるアカデミック・ライティング指導を行いました。回数は両校合わせて8回でした。これはスチューデント・ライフサイクルサポートセンター高大接続部と連携した活動です。また、機構教員(堀・坂尻)が主体となって、京都府立鳥羽高等学校2年生約80名に対し、2回のポスター発表指導と豊中キャンパスの教室でのアクティブラーニング型アカデミック・ライティング講習(写真参照)を含む探究学習支援を4回行いました。



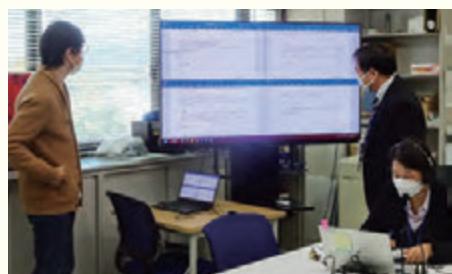
全学教育推進機構では、在学生向けの学習支援も行っています。

詳しくはこちらから →>>

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/support/academic-writing/>



## ■ 一年生クラス代表懇談会オンライン開催も三年目となりました



2022年6月および12月に1年生クラス代表懇談会をオンラインで開催しました。1年生クラス代表6名前後、教員2名、TA1名程度から成るグループに分け、授業や大学生活についての意見を収集しました。例年通り、大阪大学生活協同組合とマルチリンガル教育センターの担当者にもご出席いただき、学生からの質問にご対応いただきました。加えて、12月開催時はキャンパスライフ健康支援・相談センターにもご協力いただきました。

12月開催時の中心的話題の一つは、CLEの仕様変更でした。To Doリストが使用できなくなったことや、Blackboardの通知がオンタイムでないことについて改善要望が寄せられました。マルチリンガル教育科目のe-learningについては、本年度行われた大幅改訂により、昨年度以前に比べ満足度が高まった様子が窺えました。大学生協に関しては、組合員証のカードからスマートアプリへの切り替えについて多数の意見が寄せられたほか、食堂の感染対策のパーティションやメニューに関する要望が挙げされました。キャンパスライフ健康支援・相談センターに関しては、利用方法を広く周知してほしいなどの意見が寄せられました。



寄せられた意見は全学教育推進機構のホームページで公開予定です。

ぜひご覧ください。

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/>



## 編集後記

ほんとに小さな雪だるまを見かけました。あともう少しですね。(Yパパ)

コロナの水際対策が緩和され、4年振りに海外に行きました。世界はしっかり動いていました。(K森)

オンラインの学会が徐々に復活。移動時間の増加に伴い、読書時間も増えました。(K沢)

そろそろ思い切って海外旅行に行ってみようか検討中の今日この頃です。(伊T)



ニュースレター バックナンバーは全学教育推進機構公式サイトへ  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/publications/>

